

合掌造り集落 世界遺産に 決定



▲平村相倉集落

指定されたのは、相倉二十棟、菅沼九棟、荻町五十九棟の合掌家屋のほか、板倉や土蔵などの伝統的建造物と、これらと一体となり歴史的風致を形成している石垣や雪持ち林などを含めた六十八ヘクタール。庄川上流の山岳・豪雪地帯という厳しい地形・気候風土のなかで発達した合掌家屋が昔ながらの姿で残っていること、集落の歴史的景観と周囲の自然環境が高く評価されたものです。

今後、当該物件は人類全体として保護すべき「世界の遺産」として広く認識され、紹介されることとなります。通常の歴史的建造物とは異なり、現に今も人々が暮らす民衆が人類の遺産として認められたことは、大変意義深いといえるでしょう。

平・上平村両村では、これを契機に合掌集落の保全と地域振興を目的とした「五箇山地区まちづくり事業推進計画」を今年度中に策定するほか、富山・岐阜両県および三村で四月をめどに保全会議を設立し、保存・継承に努めていく予定です。また、三村合同による記念式典が四月に開催されます。

平村相倉と上平村菅沼の両集落が、岐阜県白川村の荻町集落とともに「白川郷・五箇山の合掌造り集落」としてユネスコ（国連教育科学文化機関）の世界遺産に登録されました。

昨年十二月にドイツのベルリンで開催された第十九回世界遺産委員会で決定されたもので、日本では六番目の登録となります。

世界の遺産を後世に



五箇山自然文化研究会副会長

北 厚子さん

（上平村菅沼集落在住）

昔から受け継がれてきた財産が世界遺産に登録されたのは、本当に喜ばしいことです。これらを守ってきた先人たちに感謝するとともに、後世に伝えていくのが私たちの役目であると考えています。

私自身ここに住んでいながら、以前は観光客の質問に答えられないことが度々ありました。そこで、郷土について勉強する機会を設置を村に提案したところ、意図を理解してくださって、平成三年に自然文化解説員養成講座が開かれました。そして一昨年、

解説 世界遺産
一九七二年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（世界遺産条約）に基づき、世界的に重要な自然、文化遺産を人類全体の遺産として保護する制度。

日本では、今回の白川郷・五箇山の合掌造り集落のほか、法隆寺の仏教建造物、姫路城、古都京都の文化財、白上山地、屋久島が登録されている。



▲屋根の葺き替え体験

より裾野の広い活動を行おうと、自然文化研究会が発足したんです。現在、会員は四十八名（うち村外在住者二十六名）にのぼります。

今年は、相倉集落での屋根の葺き替え体験や、昔の大事な食料源であった栃もちの手づくり体験などを通じて先人の知恵を学んだほか、観光客に対する解説活動も積極的にを行いました。

世界遺産への登録で、今後、観光客の増加が予想されます。これからは、住民のプライバシーが侵害されたり、ゴミの投げ捨てで景観が損なわれたりしないよう、正しい観光のあり方などについても呼びかけていきたいですね。